

再使用禁止

G7 ライナー

**【禁忌・禁止】

1. 適用対象（患者）

次の患者には使用しないこと。

- ・感染症、敗血症、骨髄炎等を有する患者〔患部に病巣が移り、良好な手術結果が得られないため〕
- ・神経筋障害、血管欠損、又は不適切な骨格固定を引き起こす可能性のある患肢におけるその他の病態を有する患者〔術後良好な結果が得られないため〕
- ・骨質又は骨量が損なわれている／損なわれている可能性がある患者〔インプラントの良好な固定が見込めないため〕
- ・骨格が未熟である患者〔インプラントの良好な固定が見込めないため〕
- ・併発疾患のある患者〔インプラントの機能及び固定に悪影響を及ぼすおそれがあるため〕
- ・筋肉又は靱帯機構が欠損している患者〔インプラントの機能及び固定に悪影響を及ぼすおそれがあるため〕

2. 併用医療機器【相互作用の項参照】

- ・弊社が指定した製品以外との併用はしないこと【適切に機能せずに緩み、摩耗、破損等が生じるおそれがあるため】

3. 使用方法

- ・再使用禁止
- ・再滅菌禁止

一般的な手術手技

〔開創〕

軟部組織と関節包を展開し、骨頭を脱臼させる。
寛骨臼のリーミングに先立ち、十分な寛骨臼の展開と、前後及び上方の視野を確保する。

〔寛骨臼の形成〕

寛骨臼内の関節軟骨や軟組織を除去し、リーマーにて寛骨臼を形成する。

〔トライアルシェル及びトライアルライナーの設置〕

トライアルシェルを設置し、コンポーネントのサイズを確認後、トライアルライナーを挿入する。

〔仮整復〕

適切なサイズのヘッドトライアルを選択し、大腿骨ステムのインプラント又はブローチにヘッドトライアルを装着し、仮整復を行う。

〔アセタブラーシェルの挿入〕

仮整復後、適切なサイズのアセタブラーシェルを挿入する。必要に応じて、スクリューでアセタブラーシェルを固定する。本品の骨への固定には、骨セメントを要しない。

〔アセタブラーライナーの挿入〕

アセタブラーライナーをカップに挿入する。

〔モジュラーヘッドの挿入及び整復〕

寛骨臼コンポーネントが適切に設置されており、仮整復を確認した後、適切なモジュラーヘッドを選択する。大腿骨ステムにモジュラーヘッドを装着し、股関節を整復する。

〔閉創〕

患部を閉創する。

【使用上の注意】

1. 使用注意（次の患者には慎重に使用すること）

- ・糖尿病等の代謝障害のある患者〔感染が発生しやすいため〕
- ・う歯等の局所的な感染を有する患者〔局所感染部から患部に感染巣が移るおそれがあるため〕
- ・ステロイド療法、免疫抑制剤等の全身薬物療法を受けている患者〔骨粗しょう症等が進行し、術後骨折が発生しやすいため〕
- ・患部に重度の変形のある患者〔矯正が十分でなく、本品を適切に支持できないため〕
- ・患部に骨腫瘍がある患者〔本品を適切に支持できないため〕
- ・骨パジェット病の患者〔骨代謝異常により、本品を適切に支持できないため〕
- ・体重過多、重労働や活動性の高い患者〔本品に過度の負荷がかかり、マイグレーションや折損等が発生しやすいため〕
- ・アルコール、麻薬中毒患者及び精神障害のある患者〔リハビリテーション等の術後管理が不十分になる可能性があるため〕
- ・他の関節に障害のある患者〔本品に過度な負荷がかかるおそれがあるため〕
- ・喫煙習慣のある患者〔治癒の遅延や、コンポーネントのルースニングの原因となるため〕
- ・再置換術の患者〔骨セメントの除去や骨量が減少しているため、初回手術に比べ、良好な手術結果が得られない場合があるため〕

【形状・構造及び原理等】

製品名・外観及び材質は以下のとおりである。

製品番号、サイズ等については法定表示ラベル又は本体の記載を確認すること。

製品名	外観
G7 Vivacit-E ライナー ニュートラル	
G7 Vivacit-E ライナー 10 Degree	
G7 Vivacit-E ライナー ハイウォール	
G7 Vivacit-E ライナー ニュートラル +5mm	

原材料：ビタミン E 添加高架橋ポリエチレン

【使用目的又は効果】

本品は、股関節の機能を代替するために骨盤側に使用するアセタブラーシェル（再置換用を含む）と組み合わせて使用し、関節摺動面を確保するアセタブラーライナーである。

【使用方法等】

- ・本品は滅菌済につき、包装開封後、そのまま直ちに 1 回限り使用する。
- ・併用手術器械は、自社指定品を併用する。

手術手技書を必ずご参照ください

2. 重要な基本的注意

- インプラントの選択、設置、ポジショニング、アライメント、固定が正しく行われない場合、異常な応力が発生しインプラントの耐用年数が短くなるおそれがあるので注意すること。
- 構成品の位置合わせ不良又は不正確な移植は、移植片又は処置の過度の摩耗や失敗を招く可能性がある。
- 閉創前、人工股関節の摺動面に骨屑や組織片等の異物が存在すると摩耗の原因となるため、十分洗浄しすべて除去すること。
- 術前又は術中インプラントの取り扱い又は損傷（引っ掻き傷、へこみなど）が生じないように注意すること。隙間腐食、フレッティング、疲労骨折、過度の摩耗を招く可能性がある。
- コンポーネントを接合する際には、表面に血液や破片が付着していないことを必ず確認してから行うこと。接合面に異物が付着していたり、かつ乾燥していない状態だと嵌合が不適切となり、コンポーネントの分解やインプラントの破損を引き起こすおそれがある。特に再置換におけるセラミック等の硬いライナーからの交換時には、破片の残留が認められる場合が多いので、注意すること。
- 正確な外科的挿入、軟部組織のバランス調整及び股関節機能の評価を確実にを行うために、本品用にデザインされた器械及びトリアルのみを使用すること。

- **** 非臨床試験によって本品は MR Conditional であることが示されている。本品を装着した患者に対して、以下に示される条件下においては、安全に MR 検査を実施することが可能である「自己認証による」;

- ・静磁場強度:1.2 T, 1.5 T もしくは 3.0 T
- ・静磁場強度の勾配: 2500 Gauss/cm
- ・MR 装置が示す全身最大 SAR:3.2 W/kg (通常操作モード)
- ・患者とガントリ内壁の間に非導電性パッドを挟むこと
- ・患者の脚と脚が接触しないよう、膝の間に非導電性パッドを挟むこと
- ・患者の腕や手、皮膚同士が接触しないようにすること
- ・本製品が存在する場合、画像にアーチファクトが発生する可能性がある。

T: Tesla、磁束密度の単位、1 T = 10,000 Gauss

SAR: 単位組織質量あたりの吸収熱量、単位は W/kg

- **** 3. 相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）

併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の 名称等	臨床症状・ 措置方法	機序・ 危険因子
弊社が指定した製品以外	併用不可	設計・開発方針が異なるため、適切に機能せず、緩み、摩耗、破損等が生じるおそれがある。

4. 不具合・有害事象

本品の使用により、以下のような不具合・有害事象が発生した場合には、直ちに適切な処置を行うこと。

重大な不具合

- ・摩耗
- ・ルースニング
- ・変形
- ・腐食
- ・破損、折損
- ・挿入（固定）不良
- ・脱転
- ・マイグレーション
- ・互換性のない組み合わせやサイズ間違いによるインプラント使用

重大な有害事象

- ・脱臼、亜脱臼
- ・感染症
- ・金属アレルギー、過敏症
- ・癒合不全

- ・骨折
- ・骨穿孔
- ・転子剥離
- ・関節可動域の減少
- ・脚長差
- ・整復不良、マルアライメント
- ・疼痛
- ・異所性骨化、周囲組織の石灰化
- ・骨溶解
- ・他関節障害
- ・軟部組織の弛緩
- ・再手術
- ・神経障害
- ・炎症反応
- ・血管合併症
- ・神経損傷
- ・オステオライシス
- ・メタローシス
- ・膨脹
- ・塞栓（脂肪、血液等）
- ・血腫
- ・ストレスシールドニングによる骨密度の低下
- ・偽腫瘍
- ・組織の局所障害 (ALTR)
- ・組織損傷
- ・固定性の喪失
- ・死亡
- ・臓器不全または機能不全
- ・神経血管障害

5. 高齢者への適用

- ・高齢者は、骨質が低下している場合が多く、術中に過度のリーミングやラスピング、又、本品を挿入する時に骨折する可能性が高いので、慎重に使用すること。
- ・高齢者は、腎機能、肝機能等の生理機能が低下している場合が多いため、術前、術中、術後の全身管理に特に気をつけること。
- ・高齢者は、何らかの感染巣を有している場合が多く、遅発性感染防止のため、感染巣を完治してから、本品を使用すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児への適用

上記の患者に対して、安全性は確立されていないため、治療上の有益性が危険性を上回っている時のみ使用すること。

7. その他の注意

インプラントの摩耗粉が細胞反応を引き起こし、オステオライシスを生じさせる可能性と、オステオライシスがインプラントのルースニングの原因になる、との報告がある。

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

常温、常湿にて保管すること。

有効期間

外箱に記載した表示を参照 [自己認証による]。

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：ジンマー・バイオメット合同会社

電話番号：03-4331-8600（代）

主たる設計を行う製造業者：Zimmer Inc. 米国

手術手技書を必ずご参照ください